

※児童生徒数が少なく、個人の結果が特定される恐れがあるため、教科調査のデータを記載していません

○ 教科に関する調査の状況

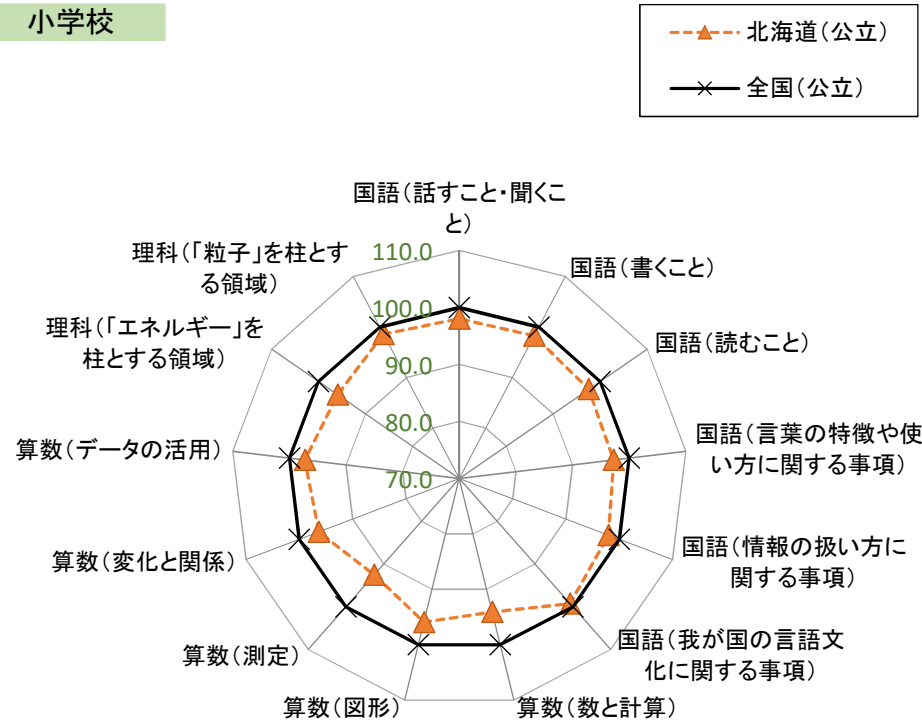
【レーダーチャート】

- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

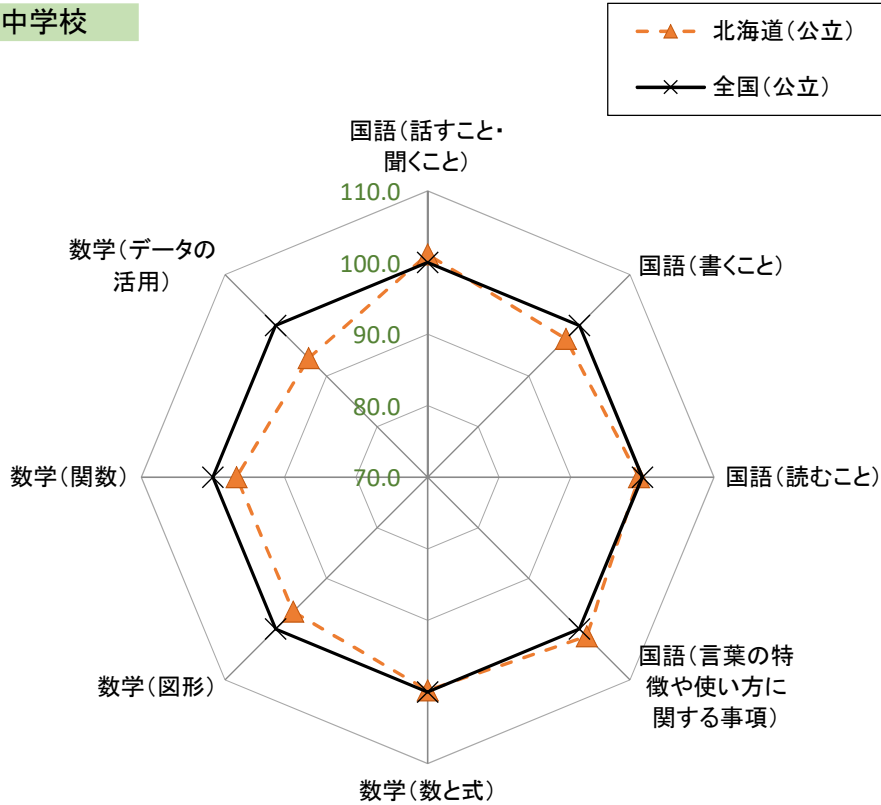
※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58	57.1	54.3	48.3	503

小学校



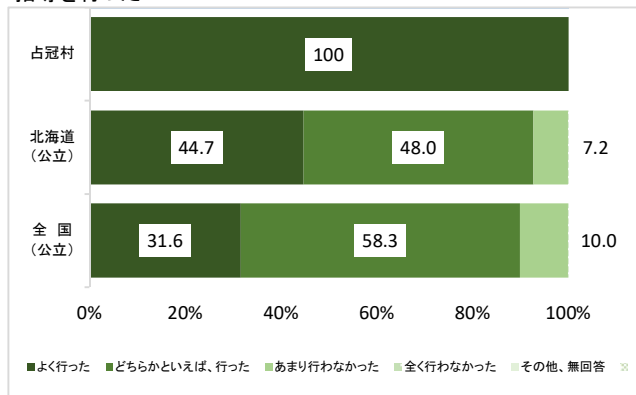
中学校



○ 質問調査の状況

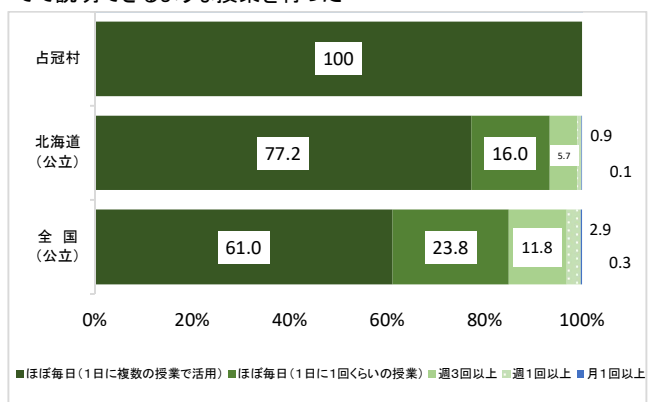
小学校 ＜学校質問＞

国語の授業において、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる指導を行った



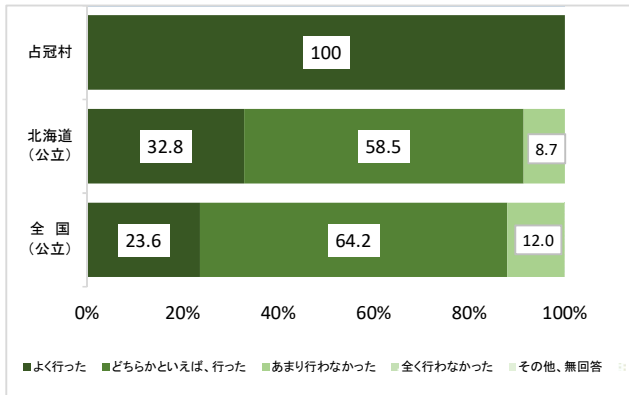
小学校 ＜学校質問＞

算数の授業において、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明できるような授業を行った



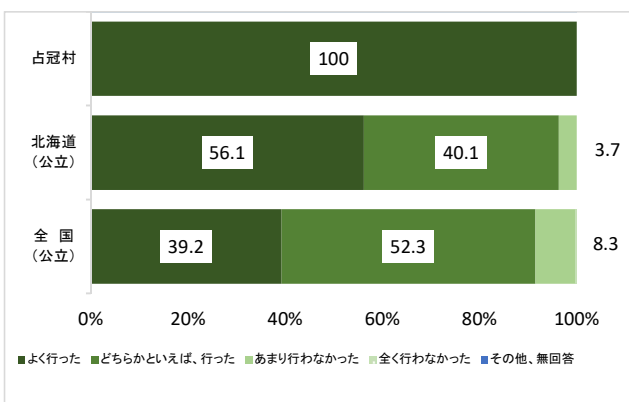
中学校 ＜学校質問＞

国語の授業において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるような指導を行った



中学校 ＜学校質問＞

数学の授業において、日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行った



○ 調査結果の分析

小学校

- 義務教育9年間を見通した教育課程を編成するとともに、小・中合同連携会議及び研修会を実施したことで、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現する学習活動を展開する授業改善が図られたと考えられる。
- 1人1台端末を日々の授業で効果的に活用したことで、児童は、ICT機器を活用し、自分のペースで理解しながら学習を進めることができていると考えられる。

中学校

- 生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫することで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が図られたと考えられる。
- 生徒自らが考える力を育てる探究型の授業を意識した授業改善を図ったことにより、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導の充実につながったと考えられる。

○ 今後の改善方策

- 義務教育9年間を見通した教育課程に基づく小中連携教育の充実
- 持続性のある教育の推進に向けた小・中合同研修会の推進
- 授業と連動した家庭学習の推進(ICTを効果的に活用した家庭学習の推進)
- 自らが考える力を育てる探究型の授業の充実